

# こまざわ経済通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

## ★アフリカ・ゼミの近況★

今年の夏、ゼミの三年生はタンザニア旅行に出かけます。全員(六名)参加します。期間は七月十七日～八月八日です。今回の旅行では、多くの野生動物や雄大な自然に出合ったり、農村に滞在しタンザニア人の生活に直に触れたり、日本のNPOの現地活動を見学したり、静かでのどかな保養地で安楽に浸ったりしてきたいと思っています。帰国後、タンザニア展を予定(十一月末)して



います。OB/OGの皆さんに是非、見に来てもらいたいです。今、ゼミでは全学年、スワヒリ語の勉強に専念しています。このタンザニア展にスワヒリ語の教科書、童話、新聞記事、漫画の日本語訳を展示したいと考えています。できれば日本語世界の童話をスワヒリ語に翻訳することにもみんなで挑戦してみたいです。タンザニアの小学校にそれを送ることができれば最高です。

## 経済学部ゼミシリーズ

### ★安元ゼミ

(一) 演習の内容・西洋経済史を勉強します。経済史、特に外国経済史を学ぶことは、遠い国の過去のできごとそのものを学ぶという無味乾燥な営為ではありません。逆に、われわれが生活している日本の現代社会のあり方、成り立ちを理解する上で重要な意義を持っています。

(二) 担当者の近況・昨二〇〇七年末に、『近代統計制度の国際比較―ヨーロッパとアジアにおける社会統計の成立と展開―』(編著)(日本経済評論社)を出版しました。今年、二〇〇八年末に、長年取り組んできた近代イギリスの工業化と都市化をまとめた『製鉄工

### ★吉田ゼミ

ゼミ活動の総決算としての卒業論文の作成

就職活動に目途が付いた後期の四年ゼミは、卒業論文の作成が課題となります。三年生までの学生風の喋り方や風体は就職活動を経ると一変し、なにやら社会人らしい雰囲気を出すが不思議です。後期のゼミは個人の到達点に応じた形で、一対一で個別指導を行います。

最初は、段落が長すぎたり、改行した後の一字空けるのをやっていたり、前後の文脈が矛盾していたり、原稿は赤字で見ても無残な姿に。しかし、よくできている点をキチンと指摘するとゼミ生は元氣回復!指導の回数を重ねるごとに見えるように文章の表現力と形式はレベルアップします。

卒業指導でもっとも苦労するのは資料が少ないテーマをゼミ生が選んだ場合です。最近の例では、「スポーツの経済的波及効果―箱根駅伝を中心に―」「オリンピックの社会的効果についての一考察」などが思

### ★姉齒ゼミ

忙しげな生活を乗りこえ

十月下旬になるとゼミ生の中はかなり進捗度で差が出てくるので、遅れているものは焦りが生じます。この時期の「卒業論文作成抜きコンパ」はゼミ生に好評です。進んでいるものは遅れている学生を援助するきっかけになったり、酒を飲み交わす中でなにやらヒントを得たりで、十一月は一気にスピードが上がり、十二月中旬の卒業論文提出が終わったあとコンパでは、「大学生らしい勉強が初めてできた」「大学生として自信と誇りを持って就職できる」という声

三年間のゼミ活動の総決算としての卒業論文の作成は、学生・教員の双方にとって卒業後の大切な思い出となります。OB・OG会はもとより、ゼミ生の結婚式のスピーチの主役は卒業作成時の苦労話が一番盛り上がり

十一月には、大妻で行われる大学祭で町田の農家がつくる有機野菜を販売、その野菜と国産豚肉を使った「純国産のトン汁」を作り、大好評でした。一番印

### ★小西ゼミ

象に残ったのは、その前日に、大妻の大学祭を手伝いに出かけた駒沢の学生が、大学祭当日のものも含めて大根一五〇本を抜き、井戸水で洗う作業を黙々とこなし、「いやだ」と言うのかと思いきや、「これまで一番充実を感じた一日だった」と目を輝かせて話したことでした。自分の認識不足を反省しつつ、改めて農業の力、学生の力を認識しました。

真に意見を聞かせる関係の積み重ねの中で本気の友達ができる、そんなゼミを大切に思っていて遅刻も欠席もなく、何でもやってみようとする力強い学生たちとこじんまりはしていても力強くゼミを続けていきたいと思っています。

二〇〇七年度より駒澤大学経済学部に着任しました小西宏美です。今年度から二、三、四年の全学年のゼミ生が揃います。ゼミのテーマは「グローバルゼミ」と多国籍企業です。多国籍企業を中心に国際貿易、国際投資、国際金融について研究しています。今年度は学内のゼミナール連合だけでなく、他大学との交流なども考えています。まだまだ試行錯誤ですが、様々な経験しながらゼミ生と共に成長していきたいです。

二〇〇七年度より駒澤大学経済学部に着任しました小西宏美です。今年度から二、三、四年の全学年のゼミ生が揃います。ゼミのテーマは「グローバルゼミ」と多国籍企業です。多国籍企業を中心に国際貿易、国際投資、国際金融について研究しています。今年度は学内のゼミナール連合だけでなく、他大学との交流なども考えています。まだまだ試行錯誤ですが、様々な経験しながらゼミ生と共に成長していきたいです。

### 経済学部同窓会役員の募集

経済学部同窓会では同窓会を運営する役員を募集しています。ご協力いただける方は下記の事務局までご連絡ください。

### 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報「こまざわ経済通信」は、経済学部と卒業生を結ぶ唯一のメディアです。紙面のますますの充実をはかるため、卒業生からの原稿を募集しております。卒業生の皆さまの積極的なご投稿をお願い致します。

- 〈論 題〉自由
- 〈字 数〉400字以内
- 〈送付先〉〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学経済学部同窓会
- \*原稿の採否に関しては、編集委員会にご一任ください。

### 経済学部同窓会ホームページをご覧ください

「駒澤大学経済学部」のホームページ (<http://www.komazawa-u.ac.jp/gakubu/keizai/>)から「経済学部同窓会」のホームページに入ることができます。経済学部同窓会に入会されていない方は、是非、入会手続きをお取りください。入会は郵便振替用紙に氏名、卒業年度、卒業学科、住所、電話番号を記入のうえ、同窓会費を納入することで完了します。〈年会費は3年分を1単位としています〉

- ・2,000円×3年分=6,000円
- ・口座番号・00190-1-614809
- ・加入者名・駒澤大学経済学部同窓会

※すでに今年払いこまれた方は、同封の納入用紙は必要ありません。



★松井ゼミ

この三月に卒業した島崎です。松井ゼミで学んだことがいまのところ一番役に立ったのは就職活動です。本日に感謝しております。

大学三年生になると、就職活動が始まりました。夏休みのインターンシップで三菱UFJ証券に行かせて頂いて、周りの人たちの就活に対する意気込みに驚かされ、自分もやる気が出ました。二月頃からI社やS社、R社などベンチャー系を面接の練習も兼ねて受け、このうち二つが内定を頂いた初めての企業でした。選考が終わったのは、三月の後半・四月でした。三月頃食品メーカーや製薬会社、百貨店、外食、小売業界を受けました。S社、W社、A社、I社、M社、S社から内定を頂きました。そして、本命であった金融の選考が始まりました。最終的にMフィナンシャルグループ、りそなHDとで悩みましたが、Mフィナンシャルグループは学閥がガチガチで出世できないと聞いたことがあったこともあり、人事の方も優しかったりそなHDにすることに決めました。ゼミでは何をやっていいのか、どこの企業でもこと細かく聞かれ、先生のゼミに入っていたよかったです。

ゼミで学んだことがもっとも役に立ったのはいまのところ就職活動ですが、これからの人生において、ゼミでの活動が血となり肉となつて、自分自身により影響を及ぼして行くであろうと信じています。

大学生生活のなかの短い期間でしたが、いつも期限ギリギリで先生には迷惑ばかりかけてしまつてすみませんでした。今回も機会を与えてくださり心から感謝しています。四年生の段階でも単位をいくつも残り、単位をわずかしりか落とせない自分にとつて、先生はまさに神がかり的存在でした。また機会があれば、お話をさせていただきます。ありがとうございます。(前ゼミ生・島崎記)

★松田ゼミ

ゼミ内容の紹介

二〇〇八年度の松田ゼミナールは、企業論を研究するゼミナールで、現在四年生七名、三年生六名、二年生十五名のゼミ員が在籍しています。

四月現在、四年生は公務員試験に臨むゼミ員を除いて就職活動が一段落したため、それぞれが卒業論文の作成に向け、各自資料収集やその分析に励んでいます。

三年生は本ゼミの他に毎週一回のサブゼミを主催しています。これは、三年生が新ゼミ生である二年生に向けて、パワーポイントを用いて経営学の基礎を講義形式で指導するものです。週に一度とはいっても、普段は「教わる側」にいる自分達というのには、彼(女)らにとつても非常に骨が折れる作業のようです。その反面、「後輩にきちんと教えられよう」に、とゼミ員全員で一生懸命に勉強しているところを見ると、準備が大変であるとはいえ、三年生の諸君にとつてはおおいに刺激にもなっているようです。また、まだ具体的に決まっていなくても、自分達の研究成果を学外に向けて発表することも企画しているようです。

二年生はまだまだこれから多くの基礎的事項を学ばねばなりません。しかし、「先輩に追いつくために」と経営学辞典や経営学・経済学の初学者のための諸々の書籍をひっきり返しながら勉強している姿を見るととても楽しみに思えます。

まだ生まれたばかりのゼミナールですが、ゼミ員同士の結束力が強いだけでなく、その結束した意識がきちんと勉強に向けられていて、指導に向けたい責任と楽しみを感じます。

★松本ゼミ

ゼミ内容の紹介

松本典子ゼミは二〇〇七年四月にスタートした駒澤大学の中でも新しいゼミです。ゼミでは、非営利組織(NPO)や市民事業組織について経営学的に勉強しています。非営利組織を勉強することは現代の社会問題を考える事につながり、非営利組織には限らない幅広い分野を学ぶことができます。実際にNPO団体へ調査・訪問すること、授業では学

ら二〇〇八年二月にかけてNPO団体におこなった調査研究では、環境・スポーツ・福祉・保育・まちづくり・労働の六つのグループに分かれ、サブゼミで発表をしたり冊子を作成したりしました。二〇〇八年二月には駒澤大学深沢キャンパスで開催された「Z A世田谷のWA」というNPOのフェスティバルに参加しました。今後も調査やイベントへの参加を続け、調査内容を「MAP・訪問表作成」という方法でゼミ生全員が共有できる形にしていきたいと思っております。

現在、松本ゼミは二年生男子十人・女子四人の十四人、三年生男子十人・女子六人の十六人、四年生男子六人で活動しています。各学年に、ゼミ長、副ゼミ長の他、ゼミナール連合、イベント、冊子編集、ソフトボール、ゼミ発表、合宿企画、工場見学、などの係りを設け、役割分担をしています。春、夏と合宿があり、去年の夏には新潟に行きました。学年隔たりなく仲がよく、先生と生徒も仲が良いため、研究室にはいつも誰かがいてとても和やかな雰囲気です。

新しいゼミで非営利組織という新しい分野に取り組んでいます。ゼミ生が意見を出し合っている、松本先生と一緒に様々なことに挑戦して

「アメリカ 理念と現実」(新潮社)など、最近五年間に単著、翻訳書、編著書を各一冊。論文・評論・書評・雑誌記事などは、日本語、英語、あわせて毎年五十本程度書いています。研究発表については、最近五年間の大規模学会だけでも十回、うち半数の五回は海外の学会でおこないました。

★石川純治ゼミ

「世の中の流行や風潮に流されない自分」に、石川ゼミのモットーは「自分自身をどう鍛えるか」、このことを常に考えよと強調しています。特に、時代を読み解く力を培うこと(洞察力)、自分の意見を言えること(発言力)、そして書けること(作文力)、これが大切な学習になっています。

昨年は、特に放送大学の番組を担当することとで忙殺されました。その「舞台裏」は私のホームページ(「その他」コーナー)にそつと掲載していますのでご覧ください。いろいろな放送のマジックや、女優泣かせのハイビジョン撮影、日本庭園が美しい深沢キャンパスでのロケなど、いくつかの苦労話など載せています。なお、テレビ放送はこの四月から始



べないような話を聞くことが出来ました。グループワークでは興味のあることを勉強し、発表や意見交換をおこなうことで、お互いに理解を深めています。

二〇〇七年十一月から二〇〇八年二月にかけてNPO団体におこなった調査研究では、環境・スポーツ・福祉・保育・まちづくり・労働の六つのグループに分かれ、サブゼミで発表をしたり冊子を作成したりしました。

ゼミの刊行物『日本学生経済ゼミナール参加論文集』は、全国的にもめずらしいとあって、就職活動などにも役立つと思います。『アメリカ経済論集』最新号は五〇〇ページをこえ、日本一のボリュームの卒論集と推定されています。

このゼミの特徴は、仲がよいこと。集まれば底ぬけに楽しい。コンパをすれば大盛會に。でも乱れたり品位が落ちたりすることは近年まったくなくなりました。「アルコールが入らなくても、いくらでも笑って、夢中になつて、楽しめる」ところがよいです。

卒業生は、近年、就職先には、法務省など中央官庁をふくむ公務員、大学をふくむ教員、日本三大銀行をふくむ金融機関、重工業から電機、食品、化粧品など各種メーカー、日本三大印刷をふくむ印刷と出版、百貨店やスーパー、JR各社や私鉄各社、全日空などの運輸(国際線をふくめ客室乗務員は多い)、JTBなど旅行各社、NTTなど通信、予備校・英会話学校など教育業界のほか、留学幹事会社など起業家もいます。公認会計士とともに税理士も多数輩出しています。



曜の午後七時〜七時四十五分、全十五回)。ちなみに、放送内容は同じものが四年間つづきます。また、放送教材『現代の会計』も市販されていますので、卒業生の皆さんとはテレビでお目にかかれるかもしれません。



▶スタジオにて  
「第1回講義  
『歴史のなかの簿記会計』」

作家の沢木耕太郎さんがある講演で「ソロで生きる意識を」ということを言っています(『朝日新聞』四月十六日)。君たちについても強調していた「群れるな!」(群れは美しくない、思索の敵)、「ひとりになれる力を!」(ひとりを恐れるな)にも通じています。とりわけ、逆境のとき「立ちすくまない」(たじろがない、動じない)という点で、それは大切な姿勢だと思います。「言うは易く、行うは難し」ですが、そういうこともそろそろ考えてみてはどうで

しょうか。卒業生のみなさん、お元気で。

★石川祐二ゼミ

石川(祐)ゼミでは、ここ数年、会計の専門的文献を題材として、文章の「論理性」がどのように構築されているのかを考えています。我々は日頃から日本語を使っていきますから、文章を「読む」ことはすぐにできてしまいます。しかし、それはその文章が「わかった」ということは同じではありません。詳細に読み込むと、矛盾や飛躍などが思った以上に見えてきます。こうした点に気づけば、それを無くしていくことで、より筋の通った論理性のある文章の組み立て方に近づくことができるのです。

最近、企業は「地頭力」のある人材を欲しているというのを耳にします。この地頭力は、日常的には想定できない問題に対して、自分で説得的な答えを考え出す能力です。重要なことは、単に突飛な答えを思いつくことではなく、どんなに突飛な答えであっても、それを導き出すに至った論理がしっかりとされていることです。自分一人に求めることが、一人明でできることが、一人頭力)にとつて、「論理性」は非常に重要な

事柄といえます。そういった意味で、少しでもゼミ生たちの役に立てば嬉しいのですが。

ところで、私は相も変わらずドイツ会計の研究をしています。ドイツの法律改正は、世界的な情勢を睨みつつ、きわめてスピーディーに行われています。特に国際的な会計制度への対応などは、国益も考慮しつつ、非常にスマートに行われています。その当たりを見ると、我が国の対応が非常に後手に回っていることを理解できます。経済状況と政治状況が不安定な現在、会計に関わる政策がどのように展開されていくのか、十分に注意して見ておく必要があると思います。さて、堅い話が多くなってしまうのですが、私は相変わらずお酒が大好きです。OBの皆さん、よければ飲みに行きましょう。そのときは、堅い話は抜きで。

★曾我 ゼミ

ゼミ紹介  
マーケティング・ゼミ  
マーケティングの学習・研究を通じて、プレゼンテーションやアイデアの力をつけることを目指しています。もちろん、最終的には、マーケティングの新たな法則を探求することを目的に、ゼミ生各人が興味を持った研究テーマで卒業論文を執筆する

ことを目的にしています。



▶深沢校舎カデミーホールでの二〇〇七年度のディベート大会の表彰式です。

われわれのゼミでは、卒業論文のほぼ九十%は三年次の紀要『粹』の制作で完成させます。三年次で執筆した論文の一部修正・加筆したものもを四年次の卒業論文にしています。三年次に執筆する論文は、三年次の夏合宿を使って、一人当たり三〜四時間かけて議論をし、指導をします。したがって、三年次の夏合宿はレクレーションもないハードな合宿です。しかし、ほとんどのゼミ生諸君が頑張って論文の執筆をしています。学位がもらえる大学院でも論文をかける学生がいる今日、僅かな単位しか認められないゼミ論文の執筆に頑張っている学生諸君は非常に優秀な学生と評価しています。(写真・・・合宿に向かうFB、大

学院合同合宿です)われわれのゼミでの大きなイベントのひとつに、全学年のゼミ合同のディベート大会があります。毎年十二月に三〜四名を一チームとして、一日がかりで六試合をしています。このディベートの方式は内容の質的向上を目指して変形されています。したがって、議論は、思いつきの内容ではなく、十分に調査された質の高いものと評価されています。興味あるディベート方式と早稲田塾から高校生へ紹介されました。

★代田 ゼミ

代田ゼミでは近年、岡三証券とのインターンシップが定着し、恒例となってきた。夏休み中の八月、岡三証券の研修センターにて、三日間びっしりとインターンが実施されている。内容は、東証の見学、日経新聞の読み合わせ、株式投資の銘柄選定とプレゼンテーション、トレディング・ルーム見学、駒澤大学OB社員との懇談等である。株式投資の銘柄選定にあたっては、会社四季報の見方を踏まえ、翌日までの宿題がだされる。これを翌日プレゼンするため、参加した学生からは、「今までこんな勉強したことは無かった」という感想が聞かれる。やはり、インターンシップ

で現場の雰囲気に触れることで、学生には大きな刺激となるようだ。



▶東京証券取引所

写真は、昨年のインターンシップ時の東証見学である。インターンシップの詳細は『駒澤大学経済学部インターンシップ報告集』に掲載されているので、御関心がある方は参照されたい。

★中津 ゼミ

中津ゼミは、情報システムを主なテーマとするゼミです。私はそもそも研究しているテーマが情報システムです。大学卒業後の就職先もコンピュータメーカーでしたので、まさか経済学部で教育する立場になろうとは思ってもみなかったのですが、情報通信技術が私たちの生活に深く浸透し、パソコンが日用品のように量販店で売られ、携帯電話やS u i c a , p a s m o な

によりコンピュータネットワークと常に接続を持つようになった現在、このゼミの経済学部の中では重要性も少しずつではありますが増してきたのではないかと思います。

このゼミでは、研究するために必要な基礎技術を繰り返し練習しています。具体的にはテーマの設定、文献調査、論文の書き方、プレゼンテーションの技法をパソコンやインターネットを活用して演習します。また単にメールが使える、ワープロが使えるだけではない、より創造的な仕事をするためのツールとして情報技術を活用するため、様々なコンピュータシステムについて実習を行います。



▶最後まで生き残ったメンバーと卒業式後に乾杯!

三年を通じて、前期はテーマを設定してレポート作成とプレゼンテーションの実習を行い、後期は輪講(文献を調べ発表しゼミで議論する)や研究の中

間報告を行い、期末にその成果をレポートをまとめ、最終発表に挑みます。また学生の希望に応じて実際に簡単なシステム開発を行うこともあります。

このようなゼミです。以前は、ITバブル崩壊の就職率が高かったのですが、ITバブル崩壊以降、就職先は金融などへシフトしています。もちろん一方ではIT企業でなくともITリテラシーの高い学生を求めようになったということがあるのでしよう。今後もITリテラシーを使って問題解決できる人材を社会に送り出すゼミであり続けたいと思います。

★北口 ゼミ

北口ゼミは、昨年の四月にできたばかりの新しいゼミです。そのため、私たちが第一期生でありゼミ生も少ないのですが、少人数である分、ゼミ生全員がまとまって仲良くやっています。ゼミでは、税についてそれぞれが受け持ったテーマについて調べ、その段階で生じた疑問についても自分なりの考えでまとめてレジュメを作成し、ゼミ生とディスカッションをしながら皆でそのテーマについて深く考えていく、という形



式をとっています。

課外授業としては、昨年は税務署（タックススペースUENO）を見学し、確定申告書を作成したり、自分の住んでいる土地がいくらかの価値があるのか路線価を調べたりしました。

ゼミ合宿は、ゼミ生の希望により房総半島にある富浦ゼミナーハウスで行いました。合宿では、ゼミ連研究発表会に向けての最終仕上げを行い大変でしたが、飲み会や他のゼミ生との交流、卓球などで盛り上がり、楽しい合宿になりました。

十月には、ゼミ連の研究発表会に参加し、「消費税の仕組み」についての研究発表を行いました。大人数の前での発表はあまり経験がありませんのでかなり緊張しましたが、この目のためにゼミ生全員で意見を出しあい完成させた研究を多くの人にみてもらえることは、私たちにとても喜ばしいことでした。

今年度は、証券取引所見学が予定されており、新しいゼミ生がたくさん入ったおかげで、去年参加できなかったソフトボール大会へも参加することができました。

ゼミは勉強も大切だけれど、思い出を作るためにあるものだと思います。合宿はもちろん、ソフトボール大会やコ

ンパなど色々なイベントがありますので、短い大学生活で一生の思い出をたくさん作りたと思います。

### ★堀ゼミ

まず、ゼミ活動の近況をお伝えします。二年生は、例年通り、人的資源管理に関する基本的知識の習得を心がけてもらっています。なかなか意見を戦わすというところまではいかないのですが、少なくとも知識の厚みは増しているはずで、三年生では、近年変化が著しい労働関係の法律の基本的知識と理念を学ぶため、具体的ケースを取り上げて議論しました。たとえば、「パートは有給休暇を取れるのか」とか、「裁量労働制の場合は割増賃金を支払わなくていいか」といった事例です。これらに関する法律を知らなくても、立法の理念から察するといふ推論で、合宿でも普段のゼミでも議論がかなり盛り上がり、ともに、生きた知識を習得することができたと思います。私自身もよく知らないものがあり、楽しく議論・勉強できました。四年生の卒業研究の領域では、不当解雇の問題、成果主義の功罪、フリーター脱出の方法、男性の育児休暇取得促進策、パートと正社員との均等待遇、ワークライフバラ

ンス実現の方策など、現代的なテーマを取り組まれました。自らが選んだテーマに関わる議論となると、今までになく積極的で説得的な意見が出てきて、成長している姿が実感できた次第です。また、就職活動をする間違いなくみな一皮向けたように成長すると再認識しました。四年生はほぼ全員が希望する企業から内定をとり、私としては安心して送り出すことができました。

次に、私の近況ですが、つい最近重いものを持ったことで腰を痛め、久しぶりにお医者さんで診てもらいました。その診たては「骨に異常はない。まあ年ですな」ということでした。大事に至らなかったのはいいのですが、少なからずショックを受けております。その後腰痛はかなりひいており、心配無用。すべて健康が基本だと改めて思い知らされました。これを機にウォーキングでも始めるつもりです。

(堀 龍二)

### ★友松ゼミ

早いもので私も駒澤大学勤続三十八年になり、初期の卒業生は定年が近い年齢になってきました。卒業生が直接連絡してくれたり、風の便りで、皆さんの活躍に思いを馳せています。自分の研究は相変わらずイギリス産業革命期を対象としており、とくに労働者生活をテーマとして食料、衣料など生活必需品の流通史を研究してきました。最近では医療や公衆衛生などにも関心をもっています。研究は深まらないのに問題関心だけがむやみに拡散してしまい、反省しているところなんです。

ゼミでは西洋経済史の諸問題を広く扱っています。ゼミ生は多くても十数名といった少数で、二年では近代経済の歴史的発達について全体的に学習し、三年と四年でアメリカ、ヨーロッパの経済史を学び、卒業研究はゼミの成果を反映させることに留意しながら自由なテーマで取り組んでいます。近年、歴史に関心のある学生が非常に減少しており、どのようにゼミを運営するか、この歳になっても試行錯誤している状態です。自主的、主体的な勉強が重要ですので、テーマが多少経済史から脱線しても、そのあたりは大目に見るようにはしています。どのような経済事象にも歴史があること、歴史の視点で見ることで認識を深めること、それを具体的な研究を通じて理解することができればと思っています。卒業生の進路はさま

ざままで、今年もIT、流通、旅行、ホテル、運輸と多彩な世界に羽ばたいて行きました。ゼミで身に付けた研究方法や知識が、人生のいろいろな場面でポテブローのように効いてくるようなことがあれば、嬉しく思います。

私は平成十一年に北海道教養部から東京の経済学部に移りましたが、北海道教養部は豊かな自然と若さに溢れた学生に恵まれた懐かしいキャンパスです。北海道教養部出身者の皆さん、もし大学に來られる機会があれば研究室（第二研究館二四一六）に立ち寄ってください。懐かしい岩見沢の話でもしませんか。

### ★館ゼミ

昨年度から新しく設置されました現代応用経済学科に所属しております。生まれは兵庫ですが、学生時代を東京で過ごした後、四年間愛知県の大学で勤務し、全国各地を転々としてきました。駒澤大学に來てから一年間が経ちますが、大学のもつ落ち着いた雰囲気にとっても魅力を感じています。

私の専門分野はミクロ経済学で、とくに市場の企業間競争に注目しています。ゼミでも産業の分析をテーマにしています。最初

分析を行うための道具となるゲーム理論について学習することから始めています。ゲーム理論は一九八〇年代に入ってから急速に発展してきた分野で、スポーツやドラッグと同じように私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまな駆け引きをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問です。この理論を身につけることによって、競争に参加している企業がそれほど多くないために、各企業がライバルを意識しながら生産や販売を行っている自動車産業やビール産業などの寡占市場を簡潔に説明できるようなゲーム理論そのものに関する惹かれてゼミを選択した人もいます。

分析道具の習得が一段落すると、その後はグループに分かれて特定の市場や企業について共同で調査します。そして、その成果はゼミだけでなく、他の大卒の共同研究会などの場でも発表してもらっています。この発表の準備のために、夏休みにも何度も大学に集まって話し合ったグループもあつたようでした。現在一期生が四年になって就職活動中であり、首を長くして吉報を待っている状況です。始まって間もないゼミで

まだ暗中模索をしている段階ですが、貴重な学生生活を少しでも有意義に過ごしてもらいたいなと思っています。

### ★長山ゼミ

長山ゼミは、二〇〇七年度にスタートしたばかりの新しいゼミです。テーマは、「地域の活性化」です。具体的な研究対象としては、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策などが挙げられます。このような地域産業の発展を通じて経済的な発展に加え、本ゼミでは、地域の主役である住民の生活の質（QOL）を高める非経済的な側面にも目を向けます。こうした総合的存在としての地域を学ぶことを通じて、経済・産業・社会の全体像を理解してもらおうことを目指しています。



長山ゼミでの指導方法は、理論と実践の両面から学ぶことに特徴があります。よって、テキストの輪読とディスカッションに加え、ケーススタディやフィールドワーク（現地調査）など実践的学習を行います。たとえば、二年生のゼミ合宿では、仮想（実在しない）が地方都市の典型例）のA地域の活性化プランをグループ単位で取りまとめてもらいます。既に用意してあるA地域の統計データや、A地域の主要企業やキーマンのヒアリング情報等を分析し、A地域の課題抽出とその解決に向けた活性化策を提示してもらいます。三年生・四年生のゼミ合宿では、実在の地域を選定し、そこでフィールドワークを通じて地域活性化のプランを策定してもらいます。

現在、長山ゼミには、四十二名が所属しています。内訳は、二年生（演習Ⅰ）が二十名、三年生（演習Ⅱ・フレB含む）が十八名、四年生（演習Ⅲ）が四名です。教員も含めてゼミのメンバーは、フォーマルな場・インフォーマルな場で共に学び、お互いに成長を実感できる日々を過ごしています。

経済通信二十一年号でお知らせした経済学部創立六十周年は二〇〇九と掲載しましたが二〇一〇の誤りでした。お詫び申し上げます。